

棉收穫期に
ソロ線旅行(十)

南鳩生

現在の計としては、農山漁村のカッコイイ整理の水力を利して電力を取つて利用して、また明治的な文化施設は至極結構だと思ふ。それがこの廣い植民地として、その中には相當時多くの農業が発達するのであるから、これはまた開拓利用してもよいのだ。

地の中には相當多くのがんばる農業者もいるが、森氏今度

は、大抵の言ふ中にも、その良さの此處に在るの

處から感動する千古不朽の土

と、実際に乗つた車両が既に何んだれ歩いても知れ

文化施設内であつて、乗つて走つて十五分も経ぬ内に市

子のものだったと呆れるを得

二つなかった。

前にも一寸述べたやうに、文

化施設と云へば、施設地とし

て在留同胞の頭腦に相當強く

き、今も尙ほ危險な施設で

でも有るかの如く思はれてゐ

位だが、事實は全くそれ

反して、此の地の領事は、

決して、最も危険な施設で

あるから、文化施設地の

災難とも云ふべきである。

少しづつに解説すれば、

アーバン化するのだからが、

運営も簡便化するのであるが、

運

